

2023年3月期  
**第2四半期 決算説明資料**

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング  
2022年10月31日



(東証グロース：7774)

## 目次

|    |                    |     |    |
|----|--------------------|-----|----|
| 1. | 第2四半期累計期間の業績・トピックス | --- | 1  |
| 2. | 柏の葉「再生医療プラットフォーム」  | --- | 22 |
| 3. | サステナビリティへの取組み      | --- | 28 |
| 4. | 参考資料               | --- | 34 |

## 再生医療・細胞治療分野

- 〇 歴史的な発見から10年が過ぎたiPS細胞による基礎研究や臨床応用が活発に行われています。
- 〇 岸田内閣の下「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」が提唱され、再生・細胞治療・遺伝子治療等を含む科学技術・イノベーションへの重点的投資など、バイオテクノロジー領域への成長を促す政策が注目されています。医療応用はもとより、エネルギーや食糧、環境問題などの社会課題に対してバイオテクノロジーを通じた解決を試みる本格的な活動が開始されました。
- 〇 2022年9月、多発性骨髄腫を対象とするCAR-T細胞製品（ヤンセンファーマ 販売名：カービクティ点滴静注）が製造販売承認され、わが国の再生医療等製品（細胞加工製品及び遺伝子治療用製品）は、当社4製品を含む17品目となりました。

## 新型コロナウイルスの影響

- 〇 新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和等に伴い医療機関からの受注が回復しつつあるなか、重症化リスクは低いものの感染力の強い第7波の影響により、当社の再生医療製品事業においても、手術直前での医師や患者の陽性判定等による中止例が多発するなど、計画手術を基本とする当社製品の使用に大きな影響をもたらしました。

## 物価高・円安等による影響

- 〇 長期化するウクライナ情勢に端を発した食料・資源の供給不足や資源価格上昇、米国や欧州を中心に人手不足を背景とした賃金上昇によるインフレ圧力、さらには米国の金融政策の動向などにより世界経済の減速不安が高まっています。
- 〇 その影響によるエネルギーコストの増大や、円安に伴う海外材料のコストアップが発生し、当社事業損益を圧迫しました。また海外材料の供給停止リスクも発生し、調達先の複線化や規制当局への変更申請といった対応を行いました。

- 当第2四半期累計期間の売上高は、自家培養軟骨ジャック、自家培養口腔粘膜上皮オキュラル及び再生医療受託事業の売上が拡大した一方、自家培養表皮ジェイスの売上が減少した影響等により、972百万円（前年同期比0.9%減）となった。
- 営業損益は、売上総利益の減少及び販管費の増加により 420百万円（対前年同期 152百万円）となった。

| 単位：百万円<br>(百万円未満切捨て表示)<br>(増減率は円単位で計算) | 2022年3月期      | 2023年3月期      |       |        |
|--|---------------|---------------|-------|--------|
|  | 第2四半期<br>累計実績 | 第2四半期<br>累計実績 | 対前年同期 |        |
|  |               |               | 増減額   | 増減率    |
| 売上高合計                                  | 980           | 972           | 8     | 0.9%   |
| 再生医療製品事業                               | 692           | 690           | 2     | 0.3%   |
| ジェイス                                   | 475           | 382           | 92    | 19.6%  |
| ジャック                                   | 175           | 205           | 29    | 17.0%  |
| ネピック、オキュラル、その他                         | 42            | 103           | 61    | 144.2% |
| 再生医療受託事業                               | 172           | 187           | 14    | 8.3%   |
| 研究開発支援事業                               | 114           | 94            | 20    | 18.0%  |
| 売上総利益                                  | 595           | 533           | 62    | 10.4%  |
| 販売費及び一般管理費                             | 863           | 953           | 89    | 10.4%  |
| 営業損益                                   | 267           | 420           | 152   | -      |
| 経常損益                                   | 265           | 419           | 154   | -      |
| 四半期純損益                                 | 267           | 421           | 153   | -      |

- ü 第2四半期累計期間におけるジェイスの売上は、382,409千円（前年同期比19.6%減）。
- ü 重症熱傷では患者発生数の減少による需要の低下に加え、死亡による移植中止例が増加したものの、これまでジェイスの需要がなかった施設からの受注が増加する傾向にあった。また、先天性巨大色素性母斑と表皮水疱症では待機患者や重症患者の治療一巡に加え、第7波による治療中止等が影響し、前年同期に対して売上が減少した。
- ü 医療機関に対する新型コロナウイルスの影響を十分に鑑み、種々の変化を捉えた営業活動を実施するとともに、重症熱傷治療における新たな施設へのジェイス価値提供を通じて売上の挽回を図る。また、表皮水疱症では潜在患者への周知と治療意欲向上に向けて患者会との連携を一層強化し、売上拡大を目指す。

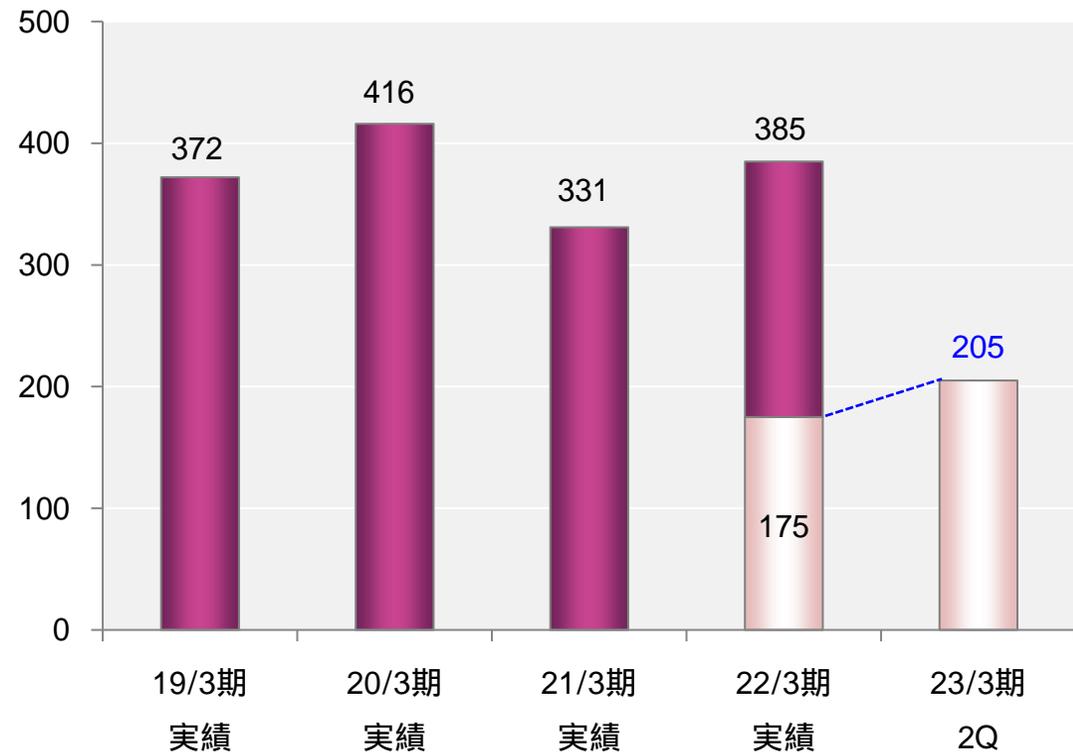


- 第2四半期累計期間におけるジャックの売上は、205,037千円（前年同期比17.0%増）。
- 第7波による手術中止が相次いだものの、これまで使用を控えていた施設や大口施設の受注が大きく回復したことで、前年同期に対して売上が増加した。
- 今後も当社は、膝の軟骨欠損症例に対してエビデンスに基づく治療成績向上を訴求し、一層の売上拡大を目指す。
- 当社は外傷に起因する二次性の変形性膝関節症への適応拡大を目指し、治験を実施中。当該治験は計画通り進んでおり、速やかにデータをまとめて申請準備を行う。

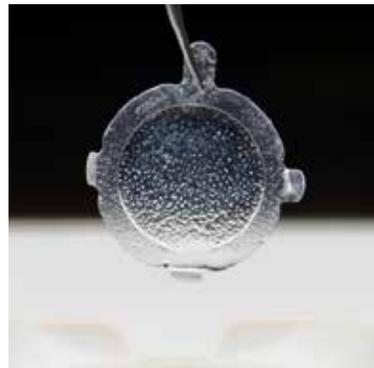


（百万円）

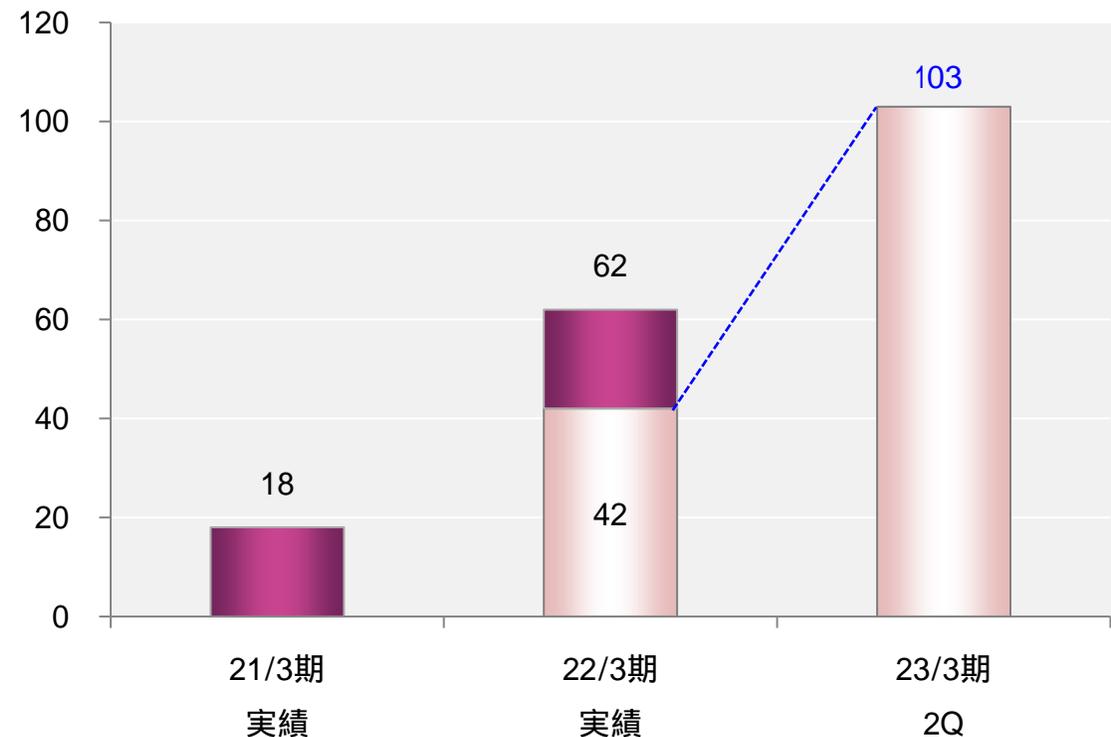
## ジャック売上高の推移



- 第2四半期累計期間における眼科領域・その他の売上は、103,400千円（前年同期比144.2%増）。
- ネピックに続きオキュラルの販売が開始され、順調に売上を伸ばした。また販売を担う株式会社ニデックと協働して眼科の主要学会にてランチョンセミナーを開催するなど、製品の認知度向上に努めた。
- 当社は、根治療法の存在しなかった角膜上皮疾患に対して再生医療という新たな選択肢を設け、眼科領域の治療発展に貢献する。



（百万円） **ネピック、オキュラル、その他の売上高の推移**

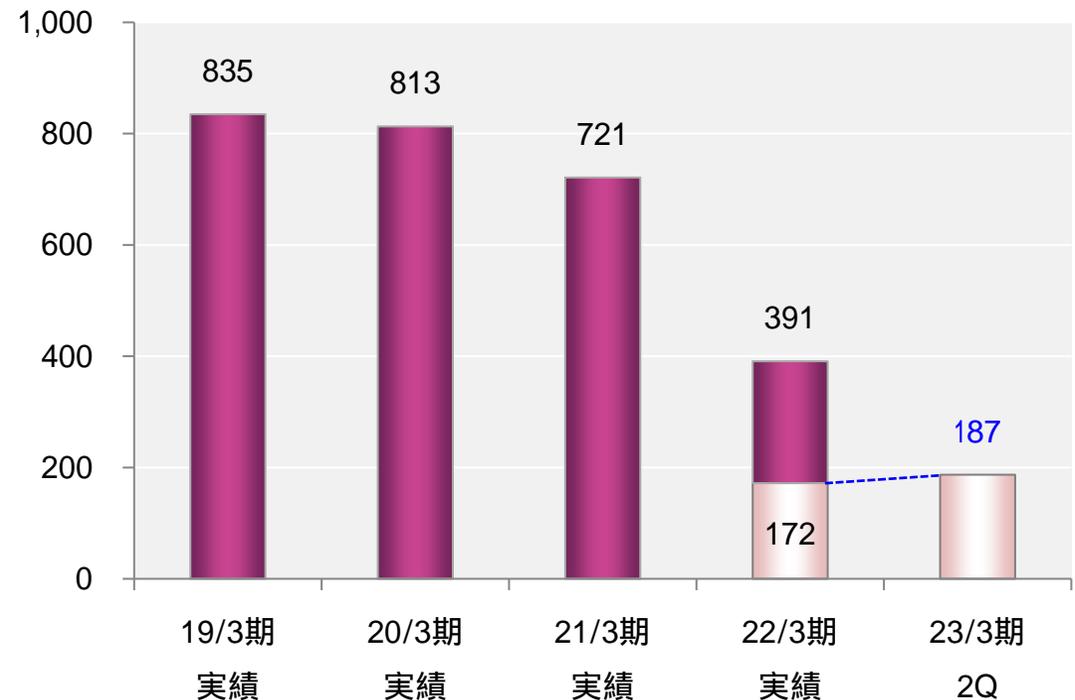


- 第2四半期累計期間における再生医療受託事業の売上は、187,095千円（前年同期比8.3%増）。
- 親会社である帝人株式会社（以下、「帝人」）からの受託が増加し、前年同期に対して売上が増加した。当社は、今後さらに第三者からの新規受託を拡充し、また帝人からの受託を進めることで、再生医療受託事業の再拡大を目指す。
- 当社は、2022年9月27日付で、帝人、国立研究開発法人国立がん研究センター、三井不動産株式会社とともに、再生医療等製品の研究・開発から、事業計画策定、商用生産までの過程をワンストップで実現する「再生医療プラットフォーム」を柏の葉スマートシティ（千葉県柏市）に共同で構築することを発表した。当社が培ってきたノウハウを活用することで、再生医療等製品の事業化を加速し、日本発の革新的な治療法の提供を通じて社会に貢献することを目指す。



（百万円）

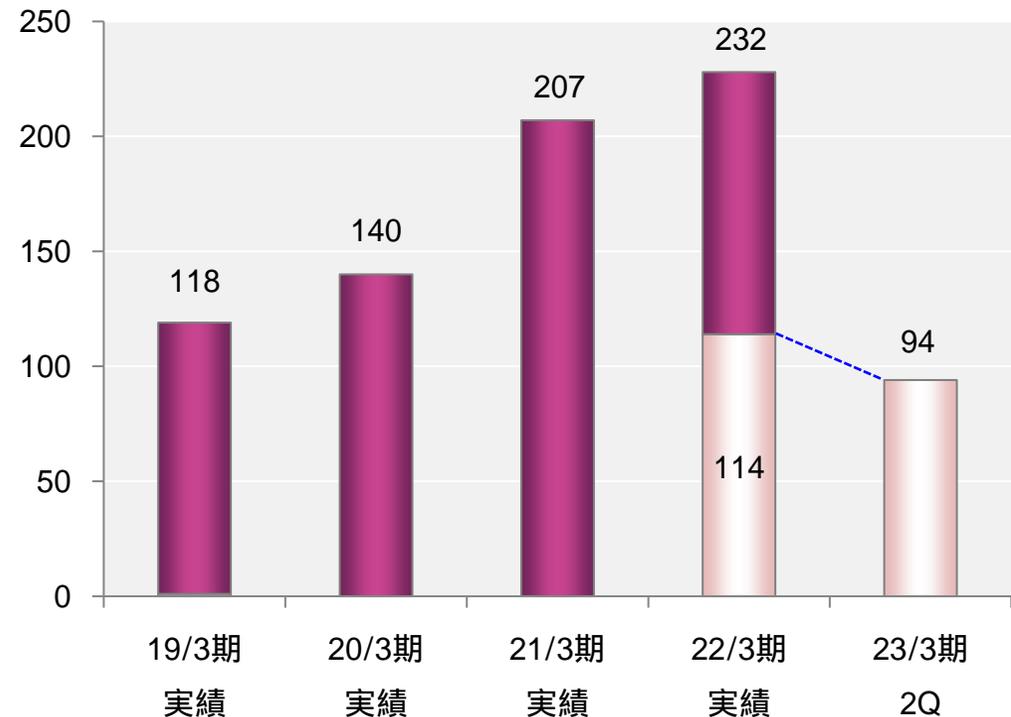
## 再生医療受託事業の売上高の推移

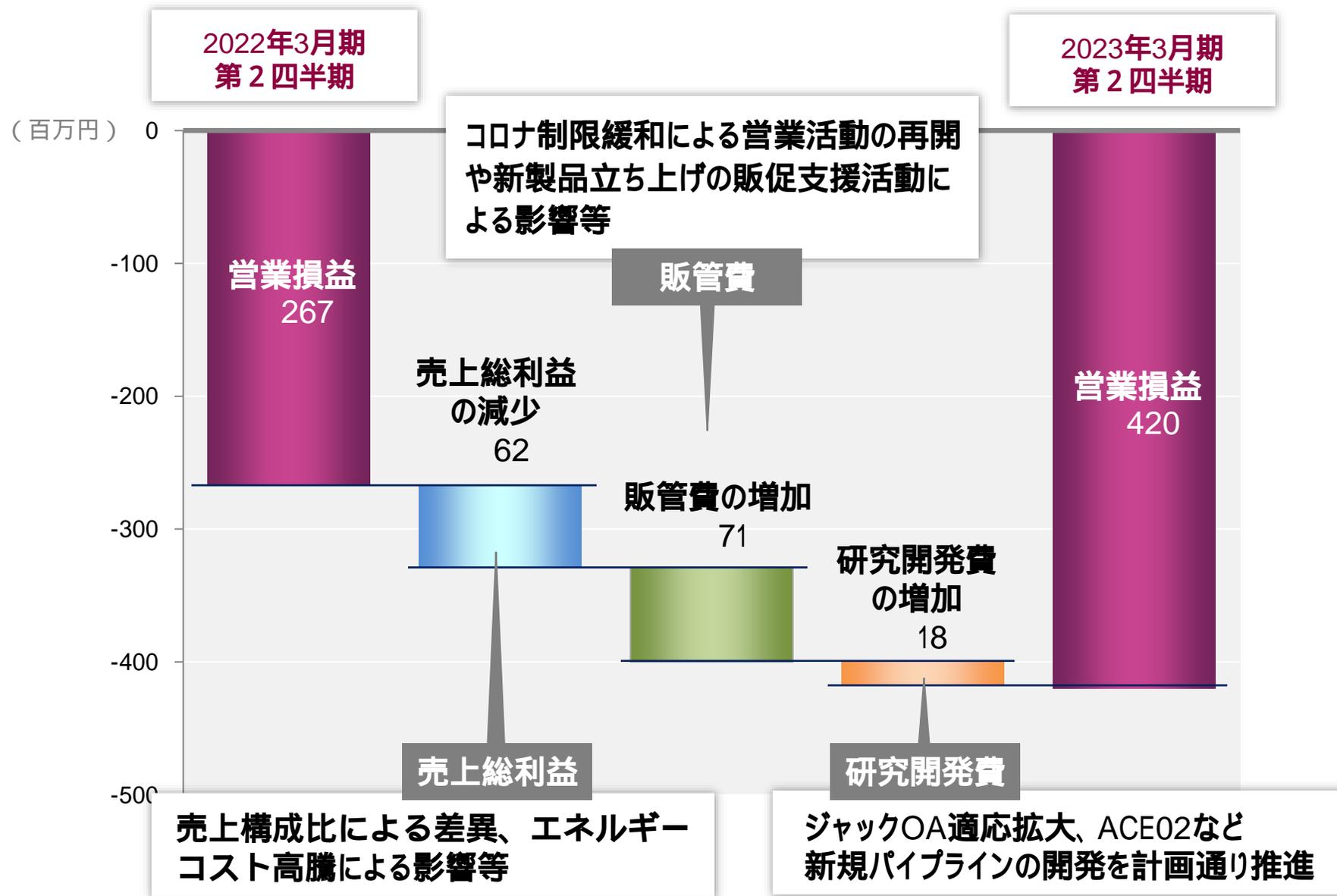


- 第2四半期累計期間における研究開発支援事業の売上は、94,245千円（前年同期比18.0%減）。
- 研究用ヒト培養組織ラボサイトシリーズの売上が堅調に推移した一方、ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞「F-hiSIEC™」の取り扱いを終了した影響により、前年同期に対して売上が減少した。
- ラボサイトシリーズでは、前年度に引き続きオンライン面談を活用し既存及び新規顧客に積極的にアプローチした。また顧客との共同研究結果を第49回日本毒性学会で報告し、ニュースリリースを配信した。共同研究の試験結果は販促ツールとして活用するなど、ラボサイトシリーズの価値を高めて訴求する活動も行っている。
- 当社は引き続き、ラボサイトシリーズが信頼性の高い動物実験代替材料として活用できることを訴求し、顧客ニーズの把握ならびに新規顧客獲得を通じて売上増加を目指す。



（百万円） **研究開発支援事業の売上高の推移**





| (単位：百万円)<br>(百万円未満切捨て表示) |              | 2022年3月期<br>2022年3月31日 | 2023年3月期<br>2022年9月30日 | 増減額                 |  |
|--------------------------|--------------|------------------------|------------------------|---------------------|--|
| 流動資産                     | 5,945        | 5,503                  | 442                    | 現金及び預金、<br>売上債権の減少等 |  |
| 固定・繰延資産                  | 1,652        | 1,620                  | 32                     |                     |  |
| <b>資産合計</b>              | <b>7,598</b> | <b>7,123</b>           | <b>474</b>             | 未払金の減少等             |  |
| 流動負債                     | 896          | 843                    | 52                     |                     |  |
| 固定負債                     | 35           | 34                     | -                      |                     |  |
| <b>負債合計</b>              | <b>931</b>   | <b>878</b>             | <b>52</b>              |                     |  |
| 資本金                      | 4,958        | 4,958                  | -                      |                     |  |
| 資本準備金                    | 2,788        | 2,788                  | -                      |                     |  |
| 利益剰余金                    | 1,080        | 1,502                  | 421                    | 当期純損失の計上            |  |
| <b>純資産</b>               | <b>6,666</b> | <b>6,245</b>           | <b>421</b>             |                     |  |
| <b>負債・純資産合計</b>          | <b>7,598</b> | <b>7,123</b>           | <b>474</b>             |                     |  |

| (単位：百万円)<br>(百万円未満切捨て表示) | 2022年3月期<br>第2四半期累計実績 | 2023年3月期<br>第2四半期累計実績 |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー         | 81                    | 324                   |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー         | 30                    | 113                   |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー         | 0                     | 0                     |
| 現金及び現金同等物の増減額 ( : 減)     | 111                   | 437                   |
| 現金及び現金同等物の期首残高           | 1,875                 | 1,533                 |
| 現金及び現金同等物の期末残高           | 1,763                 | 1,095                 |

- ☐ 営業活動によるCF： 営業活動の結果使用した資金は324百万円（前期は81百万円の使用）。主には、未払金の減少及び税引前当期純損失等。
- ☐ 投資活動によるCF： 投資活動の結果使用した資金は113百万円（前期は30百万円の使用）。主には、有形固定資産の取得及び無形固定資産の取得による支出等。
- ☐ 財務活動によるCF： 財務活動の結果使用した資金は0百万円（前期は0百万円の使用）。主には、リース債務の返済等。
- ☐ 現金及び現金同等物の期末残高：  
期首残高1,533百万円に対し、期末残高は1,095百万円となった。なお、貸借対照表中の現金及び預金（4,495百万円）との差額は、預入期間が3カ月を超える定期預金（3,400百万円）分に該当する。

- 2022年4月26日に公表した業績予想に変更はありません。
- 2023年3月期の売上高は、再生医療製品事業、再生医療受託事業、研究開発支援事業の売上拡大により2,540百万円（前期比20.8%増）、営業損益は 389百万円（対前期+108百万円）を見込む。

| 単位：百万円<br>(百万円未満切捨て表示)<br>(増減率は円単位で計算) | 2022年3月期 | 2023年3月期             |     |        |
|--|----------|----------------------|-----|--------|
|  | 通期実績     | 業績予想<br>2022年4月26日開示 | 対前期 |        |
|  |          |                      | 増減額 | 増減率    |
| 売上高合計                                  | 2,103    | 2,540                | 437 | 20.8%  |
| 再生医療製品事業                               | 1,479    | 1,806                | 327 | 22.1%  |
| ジェイス                                   | 1,031    | 1,037                | 6   | 0.7%   |
| ジャック                                   | 385      | 485                  | 99  | 25.7%  |
| ネピック、オキュラル、その他                         | 62       | 283                  | 221 | 354.6% |
| 再生医療受託事業                               | 391      | 495                  | 104 | 26.7%  |
| 研究開発支援事業                               | 232      | 238                  | 5   | 2.3%   |
| 営業損益                                   | 498      | 389                  | 108 | -      |
| 経常損益                                   | 494      | 384                  | 109 | -      |
| 当期純損益                                  | 497      | 388                  | 109 | -      |

| 2022年 | 内容   | PICK UP |
|-------|--|---------|
| 4月11日 | 「再生医療の日めくりカレンダー」公表（蒲郡市）  |         |
| 4月27日 | <b>適時開示</b> 安定期の白斑治療に用いる自家培養表皮「ACE02」：製造販売承認申請                                 | 1       |
| 5月27日 | 蒲郡商工会議所より「事業所表彰」のお知らせ<br>自家培養表皮「ジェイス」を実用化した功績で第10回技術経営イノベーション大賞での経済産業大臣賞受賞を受けて |         |
| 5月30日 | <b>適時開示</b> 2022年度「新あいち創造研究開発補助金」採択のお知らせ                                       | 2       |
| 6月2日  | 第10回技術経営・イノベーションシンポジウムにて講演   |         |
| 6月27日 | <b>適時開示</b> 「自家培養軟骨ジャック」再審査結果に関するお知らせ  | 3       |
| 7月15日 | 動物実験代替法による皮膚刺激性試験結果のデータベース化へ   |         |
| 7月20日 | <b>適時開示</b> 特別委員会の設置に関するお知らせ   |         |
| 8月8日  | 角膜内皮の再生医療 早期事業化を支援 <small>-アクチュアライズ株式会社から製品開発の一部を受託-</small>                   | 4       |
| 8月15日 | 「第8回女性技術者育成功労賞」受賞  |         |
| 9月16日 | 朝日インテック・ラブリッジ名古屋「J-TECマッチデー」開催   |         |
| 9月27日 | がんをはじめとする未解決の疾患への革新的治療創出 ワンストップで実現する<br>「再生医療プラットフォーム」産学連携で千葉県柏の葉に構築           |         |

- 2022年4月27日に、安定期の白斑（尋常性白斑又はまだら症）の治療を目的とした再生医療等製品として、メラノサイト（色素細胞）を保持した自家培養表皮（開発名：ACE02）の製造販売承認申請を厚生労働省に行った。
- 2024年3月期の上市を目指す。

### 白斑とは

皮膚に存在するメラノサイトと呼ばれる色素細胞が減少し、皮膚の色が白く抜ける疾患である。後天的にメラノサイトが破壊されて発症する「尋常性白斑」や、先天的な遺伝子異常により発症する「まだら症」などがある。

### 「ACE02」

患者さん本人の皮膚組織を採取し、分離した細胞を培養し、メラノサイトを保持したままシート状に形成して患者さん自身に使用する自家培養表皮



出典) 2022年4月27日「安定期の白斑治療に用いる自家培養表皮「ACE02」：製造販売承認申請のお知らせ」（当社）

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2109902/00.pdf>

- ü 愛知県が公募した2022年度「新あいち創造研究開発補助金」事業において、当社の申請事業が採択された。
- ü 本事業を通じて再生医療等製品の実用化の基盤整備を目指す。

### 採択された当社事業及び内容

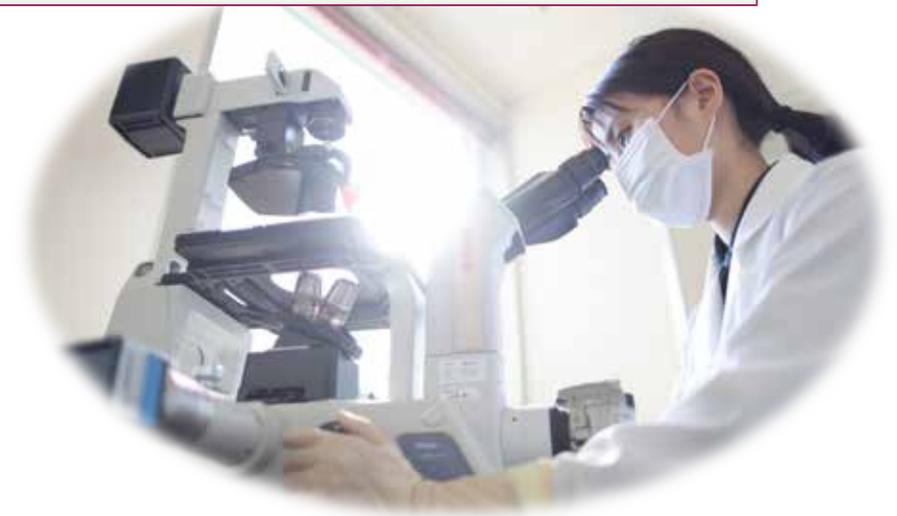
補助金  
獲得

「低侵襲治療を実現する新規再生医療等製品の開発ならびに上市品の改良に係る研究開発」

膝領域の新規製品開発として、細胞の品質特性評価や膝治療のための材料開発、ならびに上市品の改良を目指し、再生医療産業の拡大に繋げるものです。

採択案件（愛知県のホームページ）：

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/420681.pdf>



出典) 2022年5月30日「2022年度「新あいち創造研究開発補助金」採択のお知らせ」(当社)  
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2133817/00.pdf>

- ü 当社はジャックの有効性及び安全性を確認するため、7年間にわたりジャックの全症例を対象とする使用成績調査を実施した。
- ü 上市後も多くの先生方に使用いただき、再審査の結果、厚生労働省によりジャックの承認時の有効性及び安全性が改めて確認された。



### 効能、効果又は性能

膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎（変形性膝関節症を除く）の臨床症状の緩和。

ただし、他に治療法がなく、かつ軟骨欠損面積が4 cm<sup>2</sup>以上の軟骨欠損部位に適用する場合に限る。



出典) 2022年6月27日「「自家培養軟骨ジャック」再審査結果に関するお知らせ」(当社)

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2148171/00.pdf>

## 普及に向けた活動

- ☐ 医師に製品を使用いただき、より良い使用方法を検討いただく
- ☐ 検討で得られた情報を、医師から当社にフィードバックいただく
- ☐ フィードバックされた情報をもとに、当社が適正使用に向けたエビデンスを構築する
- ☐ 営業活動や学会を通じて、当社から広く医師に蓄積したエビデンスを提供する



このサイクルを重ねることでジャック事業を成熟させてきた



(ジャック使用成績調査データや最近の学会発表より)

- ☐ コラーゲン膜の導入により移植後の有害事象が低減
- ☐ 8割を超える医師がジャックの有効性を実感
- ☐ 移植後の経過時間に伴って有効性評価結果が改善



臨床研究

治験

申請

上市

真の適応を獲得し、  
より多くの患者さんへ

現在の適応対象：  
膝関節における外傷性軟骨欠損症  
又は離断性骨軟骨炎

変形性膝関節症は除く

+

適応拡大

外傷等に起因する  
二次性の変形性膝関節症

治験は計画通り進んでおり、速やかにデータをまとめて申請準備を行う。



変形性膝関節症の国内患者数  
(潜在的な患者さんを含めた推定)

約3,000万人

人工膝関節置換術の手術件数  
(2019年度)

約9万人



**-アクチュアライズ株式会社から製品開発の一部を受託-**

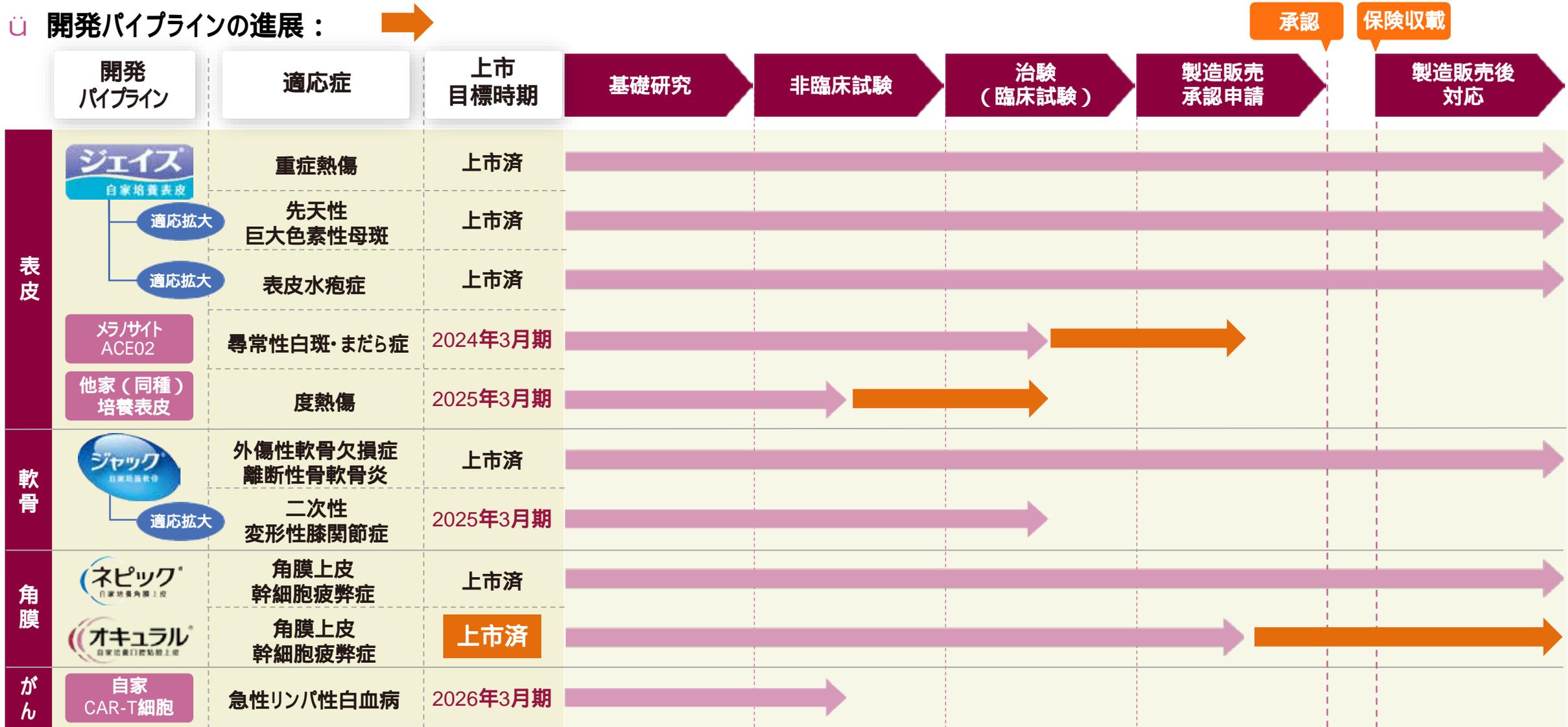
- ü 当社は、角膜内皮障害への再生医療等の研究開発を手掛けるアクチュアライズ株式会社が株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所と共同で開発を進める角膜内皮の再生医療製品候補（開発名：AE101）について、製品開発の一部を受託する契約をアクチュアライズと締結した。
- ü 眼科領域製品（自家培養角膜上皮、自家培養口腔粘膜上皮）の開発・上市を通じて獲得した知見とノウハウを生かし、アクチュアライズが開発を手掛ける角膜内皮の新たな治療法である再生医療製品候補の早期事業化を支援する。



出典) 2022年8月8日「角膜内皮の再生医療 早期事業化を支援 -アクチュアライズ株式会社から製品開発の一部を受託-」(当社)

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2167937/00.pdf>

## 開発パイプラインの進展：



## F 課題 1

- 重症熱傷の売上は火災等による患者発生に左右  
コントロールが利かない製品が売上の柱

## F 課題 2

- 適応が希少疾患のため 1 製品あたりの売上が小さい
- 少量多品種生産のためコストは割高になる

## F 課題 3

- 医薬品・医療機器とは異なる自家細胞利用再生  
医療等製品事業の本質的課題  
(開発・製造・提供プロセスが製品毎に千差万別)

## F 解決に向けた取り組み

- ジャックやネピック・オキュラル、受託事業の売上成長による  
ジェイスに続く柱となる事業の育成
- つくりおきが可能な同種培養表皮Allo-JaCE03の開発



## F 解決に向けた取り組み

- ACE02 (白斑)、ジャックOA適応拡大など市場の大きい  
疾患を対象にした新製品の開発
- 数量に応じた生産効率化



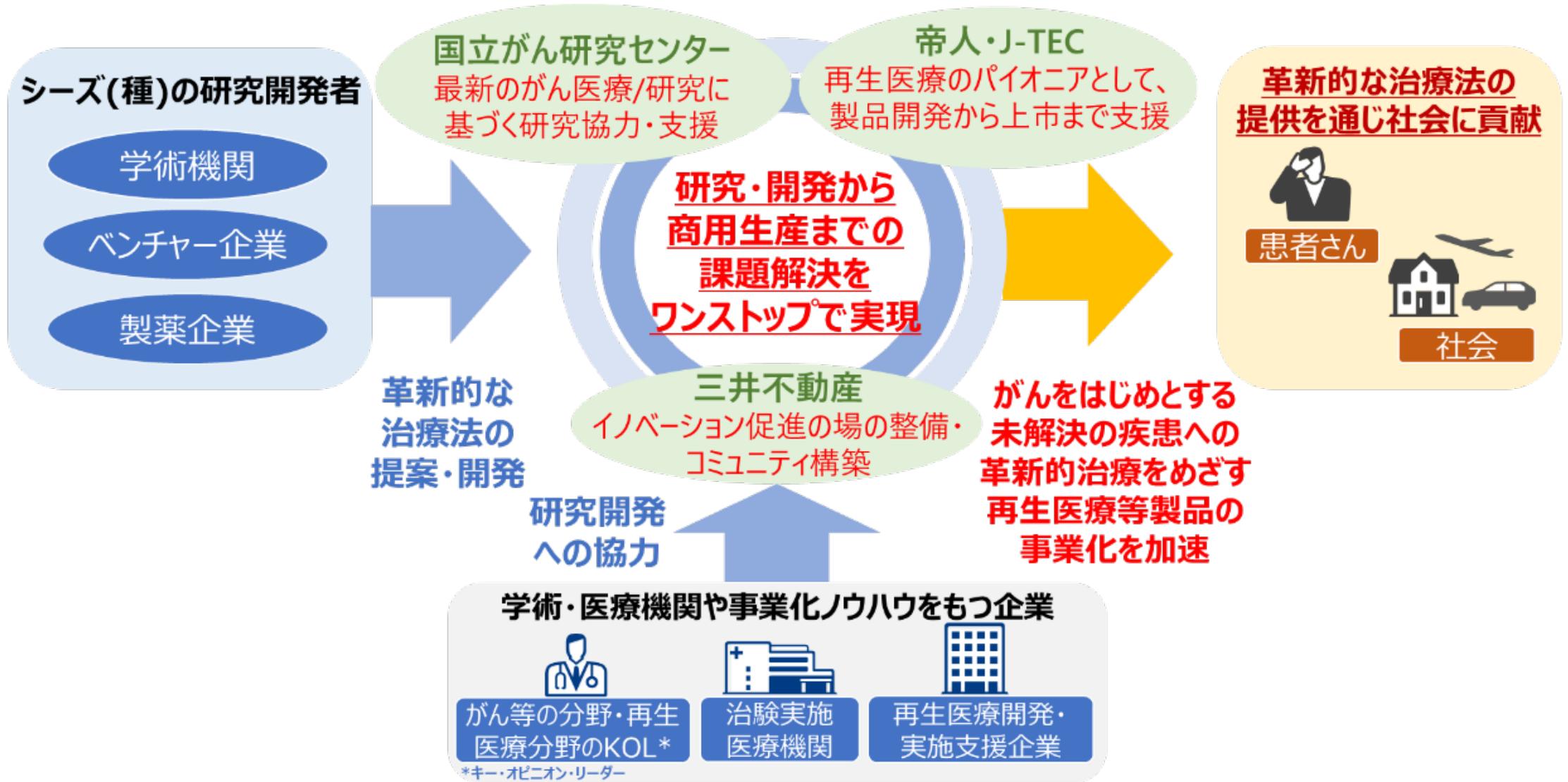
## F 解決に向けた取り組み

- 再生医療等製品の新規ビジネスモデルの構築  
(モダリティベースからプロセスベースへの転換)
- CDMO事業 (再生医療プラットフォーム) を通じた  
再生医療提供スキームの確立



## 目次

|    |                    |     |    |
|----|--------------------|-----|----|
| 1. | 第2四半期累計期間の業績・トピックス | --- | 1  |
| 2. | 柏の葉「再生医療プラットフォーム」  | --- | 22 |
| 3. | サステナビリティへの取組み      | --- | 28 |
| 4. | 参考資料               | --- | 34 |

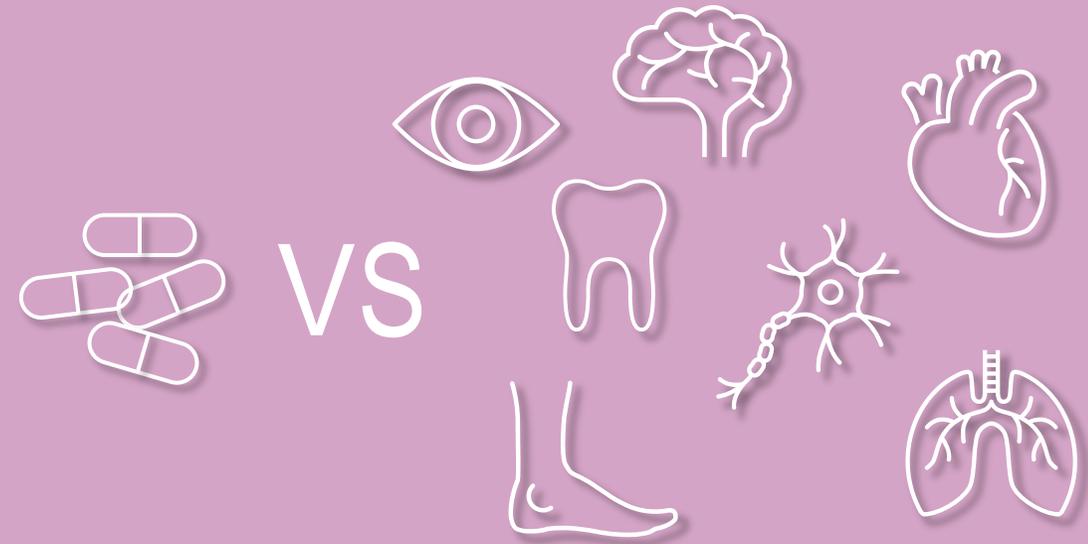


出典) 2022年9月27日「がんをはじめとする未解決の疾患への革新的治療創出 ワンストップで実現する「再生医療プラットフォーム」 産学連携で千葉県 柏の葉に構築」(帝人、当社、三井不動産、国立がん研究センター) <https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2184096/00.pdf>

## 再生医療自体の多様性

- 細胞の由来（自家/他家）
- 形態（懸濁液/三次元構造物）
- 効果の発現期間（短期効果/長期効果）
- 輸送方法（凍結/非凍結）等

👉 それぞれ製品特性が異なり開発プロセスやビジネスモデルのチューニングが必要



## 顧客ニーズの多様性

- 開発～販売の各ステージにおける顧客からのニーズ（薬事コンサル/製造/品質管理/販売・マーケティングなど）

👉 アカデミア、大手製薬企業、バイオベンチャー等さまざまな顧客が多様なサービスを希望する

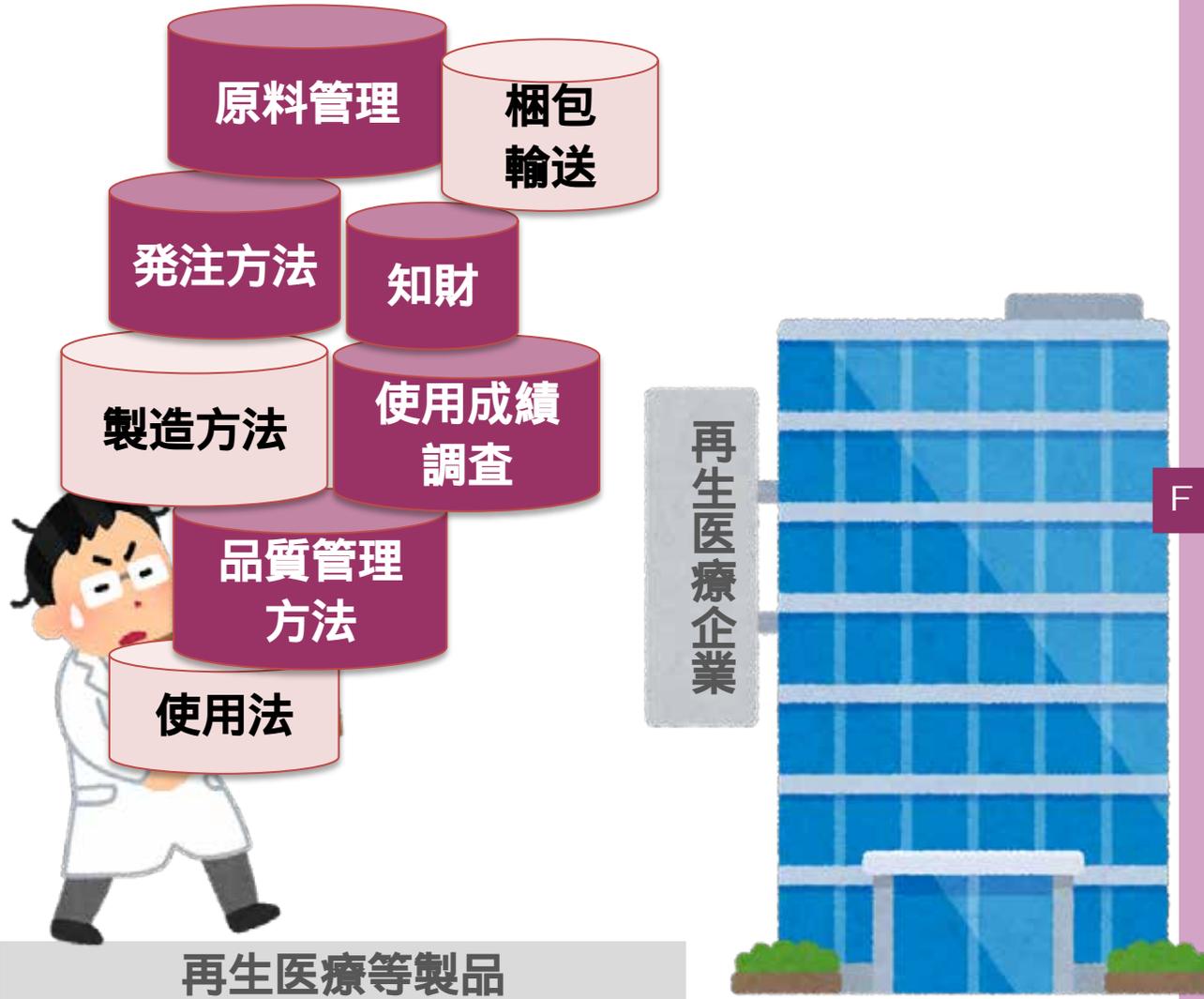


F 開発段階

研究用・原料細胞のセルバンクの構築  
製造・培養法の標準化  
製品候補の特性解析  
安全性と有効性の規格の設定  
GCTP (QMS) 適合施設の建設  
製品パッケージと輸送システムの開発

F 上市後

- ・ 医師用・患者用の手引書
- ・ 使用方法の啓蒙
- ・ 物流体制の整備
- ・ 信頼性保証体制の構築・運営
- ・ 市販後調査体制の整備
- ・ 使用方法のアップデート方法確立
- ・ 原価管理・会計管理システムの整備



乗り切るために  
必要なこと

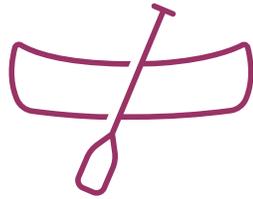
・製品化・事業化からの  
バックキャストिंग

・生産体制の構築  
・適切な規制対応  
・信頼性保証

・市場環境の整備  
・使用方法の確立  
・医療文化の醸成

素晴らしい技術シーズ

研究



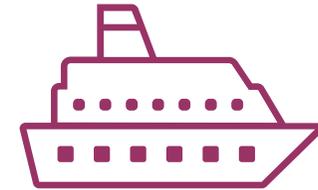
魔の川

開発



死の谷

製品化



ダーウィンの海

事業化

無理のある製品設計

規制環境

医師への啓蒙

課題

従前の製品設計の踏襲

医療財源の制限

なじまない医療文化

従前のビジネスモデルの踏襲



## 全国規模の病院（国立がん研究センター）との連携

より多くの患者さんへのアクセスが可能に



## 多種多様な企業が集まって協働できる場

当社が有していない知見・ノウハウの集積



## 情報発信力の強化

柏の葉から広く国内外に当社の存在を拡散



## 製造拠点の分散化

地産地消モデルの実現



## 目次

|    |                    |     |    |
|----|--------------------|-----|----|
| 1. | 第2四半期累計期間の業績・トピックス | --- | 2  |
| 2. | 柏の葉「再生医療プラットフォーム」  | --- | 22 |
| 3. | サステナビリティへの取組み      | --- | 28 |
| 4. | 参考資料               | --- | 34 |

- 〰 当社の製造部長である藤田美穂が一般社団法人技術同友会の主催する「第8回女性技術者育成功労賞」を受賞した。
- 〰 当社は、社員の約60%・管理職の約30%が女性であり、女性の社会的活躍を積極的に推進している。当社は今後も、SDGsの目標のひとつにある「ジェンダー平等を実現しよう」を達成するために、男女共同参画社会の実現に向けて様々な形で貢献していく。



## 「第8回女性技術者育成功労賞」

主催：一般社団法人 技術同友会

協賛：NPO 法人 J- Win

後援：内閣府男女共同参画局、経済産業省、  
厚生労働省、国土交通省

技術同友会のホームページ <https://jaotex.or.jp/>

技術同友会は、政府の目標である「指導的地位の女性比率を2030年に30%を達成」に向けて率先して支援するために、産業界への女性技術者登用・任用の推進支援活動を行っている。



2022年8月10日 表彰式にて（中列の左から2番目が藤田）

出典) 2022年8月15日「第8回女性技術者育成功労賞」受賞について」(当社)

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7774/tdnet/2174045/00.pdf>

## 小学生向け ワークショップ



当社社員と蒲郡市の若手職員で「再生医療の日めくりカレンダー」を作成し、蒲郡市内の小学校（全学級）に配布した。

（蒲郡市のホームページ）

<https://www.city.gamagori.lg.jp/unit/sangyo/saisei-calendar.html>

## 小学生向けワークショップの開催

- 2022年8月、蒲郡市「生命の海科学館」にて、近隣の小学生を対象としたサイエンス・ワークショップを開催した。
- 当社の新入社員が主体となって企画し、再生医療等製品の製造方法・治療例についての説明や、ライスペーパーを用いた表皮移植体験など、再生医療への理解を深めてもらった。
- 当社は、地域の方々にとって再生医療が身近なものになるよう、今後もこの活動を続けていく。



## SDGs マルシェ in 竹島

- 蒲郡市で開催された「SDGsマルシェ in 竹島」では、再生医療を紹介するなど、地域とのつながりを築き相互の理解を深めてもらう活動にも参画している。



「SDGsマルシェ in 竹島」についてはこちら

（蒲郡青年会議所のホームページ）<https://gamajc.com/act/2022-09/>

- 〇 当社がパートナーを務める、愛知県的女子サッカーチーム「朝日インテック・ラブリッジ名古屋」のホーム試合などでリーグ第16節にて、「J-TECマッチデー」が開催された。
- 〇 ラブリッジは、愛知県女子サッカーの発展、女性アスリート活躍の場の創出を目標に、日々邁進する。
- 〇 J-TECは、「再生医療をあたりまえの医療にする」というビジョンを掲げ、再生医療を通じた地域貢献活動（町おこし）へ取り組んでいく。



2022年9月3日（土）@豊田市運動公園陸上競技場



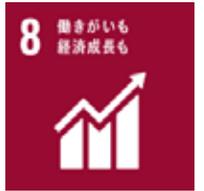
当社がパートナーを務める

当社の若手社員が中心となって  
務めた「キックインセレモニー」



選手と「エスコートキッズ」として  
当社社員の家族も参加

- 2019年からは4年連続で、「健康経営優良法人」に認定されている。
- 当社は、継続して従業員の健康保持・増進を図り、従業員一人ひとりが安心して活躍できる職場環境づくりに努めている。



## 健康経営宣言

当社は「再生医療をあたりまえの医療に」というビジョンのもと、再生医療のリーディングカンパニーであり続けるために、従業員が心身ともにいきいきと働ける健康づくりを積極的に推進することを宣言します。

### 健康施策の取組みに関する指標

#### 定期健診受診率

| 2021年度 | 2020年度 |
|--------|--------|
| 100%   | 100%   |

#### ストレスチェック受検率

| 2021年度 | 2020年度 |
|--------|--------|
| 94.0%  | 86.1%  |

#### 有休取得状況

| 2021年度 | 2020年度 |
|--------|--------|
| 73.0%  | 70.0%  |

#### 退職率

| 2021年度 | 2020年度 |
|--------|--------|
| 4.8%   | 2.6%   |

## 2022年度活動内容と目標

### メンタルヘルス対策

四半期ごとのストレスチェック実施  
産業医面談実施勧奨による休職予防  
メンタルヘルス起因の休職者 年間0名を目標

### 運動習慣の定着

健康保険組合主催健康増進イベントへの参加勧奨  
社内有志スポーツイベントへの会社後援  
目標参加率50%超



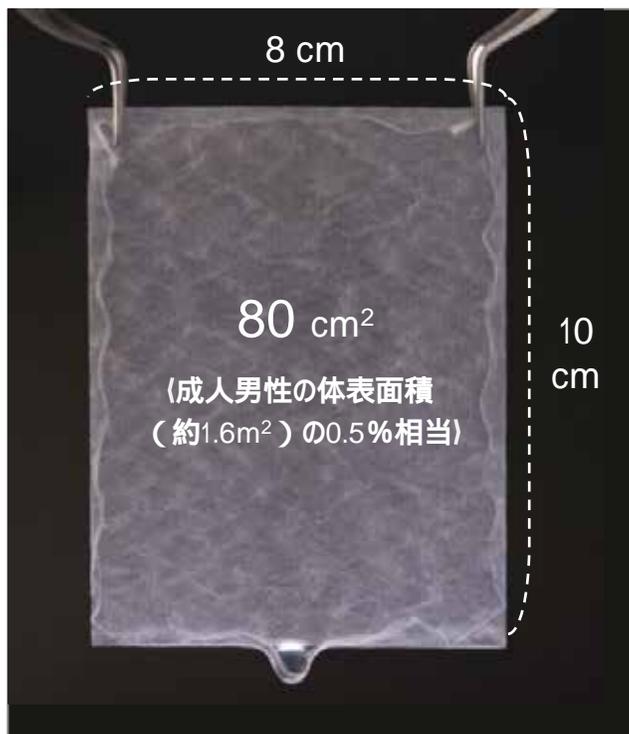


私たちは  
わが国の再生医療の発展に  
なくてはならない価値を創造します。

再生医療をあたりまえの医療に

## 目次

|    |                    |     |    |
|----|--------------------|-----|----|
| 1. | 第2四半期累計期間の業績・トピックス | --- | 1  |
| 2. | 柏の葉「再生医療プラットフォーム」  | --- | 22 |
| 3. | サステナビリティへの取組み      | --- | 28 |
| 4. | 参考資料               | --- | 34 |



## 適応対象 ① 重症熱傷

受傷面積として深達性 Ⅱ度及び Ⅲ度熱傷創の合計面積が体表面積の30%以上の熱傷を適応対象。

## ② 先天性巨大色素性母斑

母斑面積が体表面積の5%以上の治療など、既存の標準的な治療では母斑の切除に対応しきれない場合に適用。

## ③ 栄養障害型表皮水疱症及び接合部型表皮水疱症

4週間程度持続しているびらん・潰瘍及び潰瘍化と再上皮化を繰り返すびらん・潰瘍に対して適用。

## 保険償還 価格

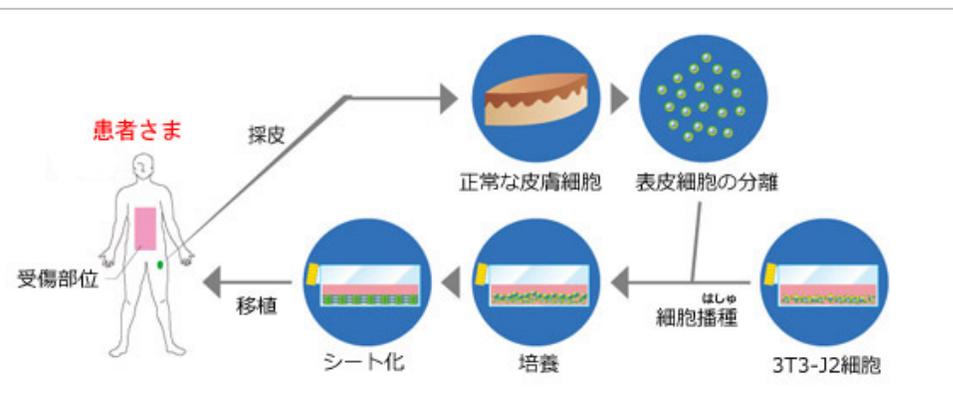
採取・培養キット：4,460千円

調製・移植キット：154千円 / 枚

算定限度：40枚（熱傷）ただし、医学的に必要がある場合は、その理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載した上で50枚を限度として算定できる。30枚（母斑）、50枚（表皮水疱症）

## 技術 導入元

米ハーバード大学 Howard Green 教授





## 適応対象

### 膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎 (変形性膝関節症を除く)

の臨床症状の緩和。ただし、他に治療法がなく、かつ軟骨欠損面積が4cm<sup>2</sup>以上の軟骨欠損部位に適用する場合に限る。

## 保険償還 価格

採取・培養キット： 895千円  
調製・移植キット： 1,270千円 (使用した個数に係らない)

## 技術 導入元

広島大学 越智 光夫 教授





販売：株式会社ニデック



## 適応対象

### 角膜上皮幹細胞疲弊症

ただし、以下の患者を除く。

- ・スティーヴンス・ジョンソン症候群の患者
- ・眼類天疱瘡の患者
- ・移植片対宿主病の患者
- ・無虹彩症等の先天的に角膜上皮幹細胞に形成異常を来す疾患の患者
- ・再発翼状片の患者
- ・特発性の角膜上皮幹細胞疲弊症患者

## 保険償還 価格

採取・培養キット： 4,280千円

調製・移植キット： 5,470千円

## 技術 導入元

イタリア G Pellegrini教授・M De Luca教授





販売：株式会社ニデック



適応対象 **角膜上皮幹細胞疲弊症**

保険償還価格  
 採取・培養キット： 4,280千円  
 調製・移植キット： 5,470千円

技術導入元 **大阪大学 西田 幸二 教授**



本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

## 株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

TEL: 0533-66-2020 FAX: 0533-66-2019

Email: [jtec-info@jpte.co.jp](mailto:jtec-info@jpte.co.jp)